

「可燃ごみ減量プロジェクト」発足について

2016-10-20

可燃ごみ減量PJ長：春田育男

1、発足の経緯

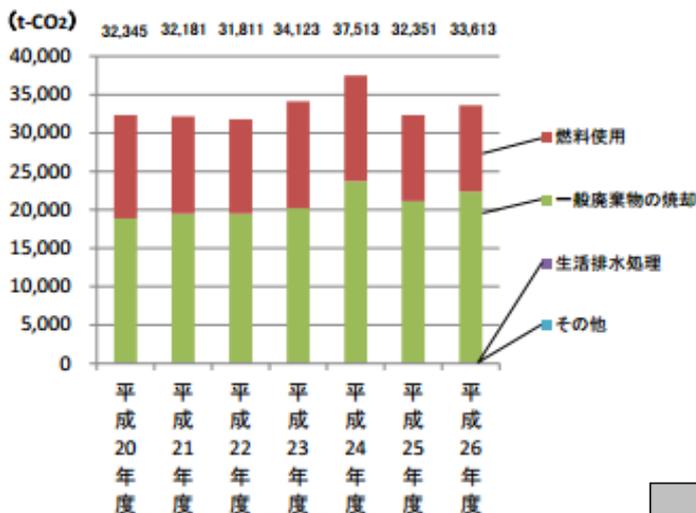
平成27年7月「流山市環境審議会特別委員」を委嘱されました（平成28年10月解嘱）。委嘱業務は、「流山市地球温暖化対策実行計画」の改定作業でした。実行計画には「事務事業編」（ストップ温暖化！流山市役所率先実行計画）と「区域施策編」（ストップ温暖化！ながれやま20⇒20プラン）があります。

事務事業編は、流山市役所は市内最大級の事業者であり、他の大規模な事業者に匹敵するエネルギーを使用していることから、市域全体の温室効果ガス削減のため、大きな役割を担っています。市役所の事務・事業から排出される温室効果ガスを削減する為の計画です。

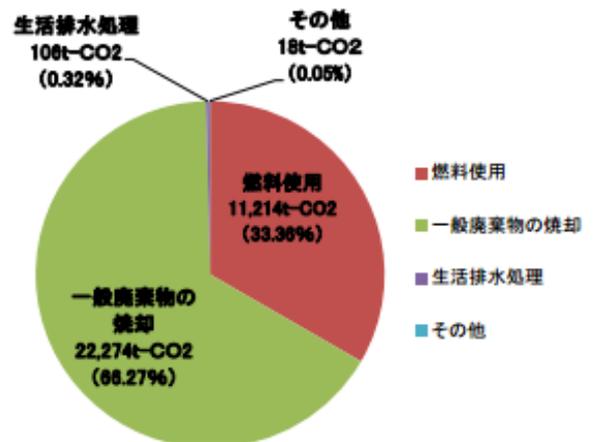
そこで市役所から排出される温室効果ガスを調べて見ると下記となっていました。

（平成27年度版流山市環境白書から）

【市役所からの温室効果ガス排出量の推移】



【市役所が排出する温室効果ガスの内訳】



クリーンセンターの「一般廃棄物の焼却」が約66%を占め、化石燃料（灯油など）からの量などを含めると、クリーンセンター全体から排出される温室効果ガス量は、市役所が排出する量の約71%となります。

項目				平成26年度		
				活動量	二酸化炭素排出量	排出係数
				-	kg-CO ₂	-
エネルギー消費	購入電力	東京電力	kWh	0	0	0.530
		荏原環境プラント	kWh	3,695,994	0	0.000
	化石燃料	灯油	L	909,000	2,262,940	2.49
		重油	L	0	0	2.71
		都市ガス	Nm ³	0	0	2.08
		液化天然ガス(LNG)	kg	0	-	-
		液化石油ガス(LPG)	kg	3,020	9,061	3.00
		ガソリン	L	0	0	2.32
		軽油	L	978	2,562	2.62
	化石燃料合計			-	2,274,563	-
エネルギー消費合計			-	2,274,563	-	
廃棄物	廃棄物焼却量	t	7,998	21,553,812	2695	
	廃棄物焼却処理合計	-	-	21,553,812	-	
二酸化炭素合計				-	23,828,325	-

市役所の事務・事業から排出される温室効果ガスを削減する為には、クリーンセンターの一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出量を削減する必要があります。
その事から「可燃ごみ減量PJ」を平成28年度に発足しました。

2、可燃ごみ減量PJ

平成27年度に、「省エネルギーPJ」（PJ長：平手 彰）と「再生可能エネルギーPJ」（PJ長：馬渡敏隆）が発足しそれぞれ活動していました。

可燃ごみ減量PJは、平成28年4月に発足しましたがクリーンセンターからのデータ入手に時間が掛かり活動開始は、10月からとなりました。

クリーンセンターに提出依頼したのは下記データでした。

- ①平成27年度及び平成28年度の直近までの「可燃ごみ分析（プラ混入率）／月別」
- ②同上の「ごみ焼却量／月別」

*平成26年度のデータは「清掃のあらまし 2015」で公表されています。

クリーンセンターには、平成27年11月に依頼しその後何度も督促をしていました。公表されたのが、平成28年10月11日です。（平成28年8月分まで）

<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/33/270/031705.html>

3、これからの活動

焼却ごみ量およびCO2排出量を「見える化」します。

データは、上記HPと既報「清掃のあらまし」を使用します。

「見える化」は、毎月を原則とします。

それぞれの削減策は下記です。具体的活動は別途とします。

- ・可燃ごみ減量＝紙類の資源化、生ゴミの資源化
- ・CO2削減＝可燃ごみに含まれるプラスチックの削減（プラ混入率の削減）

4、その他

平成28年8月「流山市廃棄物対策審議会委員（平成30年8月まで）」を委嘱されました。同審議会に於いても「可燃ごみ減量」、「CO2削減」を提案していきます。

以上